

## 長周期地震動予測地図作成スケジュール(案)

H21  
9月

- 「長周期地震動予測地図」2009年試作版 公表
  - 想定東海地震
  - 東南海地震(1944年タイプ)
  - 宮城県沖地震(1978年タイプ)

H22  
4月

- 「長周期地震動予測地図」2010年試作版 公表
  - 南海地震(1946年タイプ)

関東地震90周年(2013年9月)にむけて  
情報の発信

- 海溝型地震の強震動予測に関する検討
  - ☆ 東南海、南海地震等が連動した場合の検討
- 地下構造モデルの高度化
- 予測地図の見せ方についての検討
- その他必要な事項について検討

来年度以降

一般向け、専門家向けという対象  
を意識した見せ方の検討

- 一般の国民、防災担当者には何を理解してもらい、その為に何を示すか
- 専門家には、何を提示する必要があるか



## 第7回総合部会における長周期地震動予測地図に関する論点

### <委員からの指摘事項>

- 速度応答スペクトルの減衰について、高層建築物を対象にしているのであれば5%は大きすぎ、実際には1%程度である。
- 地表での揺れの継続時間は出ているが、建物の応答の継続時間という視点も必要だと思われる。
- 継続時間の定義も1カイン以上ということで時間が示されているが、平均的な人が感じる時間が何秒、不快に思う時間が何秒、というような視点で示すべきではないか。
- 建築の分野では、100m超で超高層、60m超で高層とっているので、用語を工夫するべきである。
- 「長周期」という言葉もユーザーの分野によって異なるので、注釈をつけてもらう方がいい。